

大会名 Competition	第21回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-103	Year Month Day Time 2008 年 5 月 3 日 12 : 00
場 所 Place	能代市総合体育館



チームA		チームB										
春日部	<table border="1"> <tr><td>15 1st</td><td>27</td></tr> <tr><td>18 2nd</td><td>29</td></tr> <tr><td>4 3rd</td><td>22</td></tr> <tr><td>14 4th</td><td>12</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	15 1st	27	18 2nd	29	4 3rd	22	14 4th	12	OT		明成
15 1st	27											
18 2nd	29											
4 3rd	22											
14 4th	12											
OT												
51 ●		90 ○										

主審:Referee 渡邊 亮 福島県
副審:Umpire 小川 裕之 秋田県
テーブルオフィシャル:Table officials 能代高等学校

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4		摩庭 大河	CAP	-	-	-	-	0	4	×	藤井 則希	CAP	16	2	4	2	2
5	×	清水 隆亮		18	3	4	1	2	5	/	佐藤 文哉		18	4	3	0	3
6	×	新田 華武伊		10	0	3	4	3	6	×	石川 海斗		10	2	2	0	0
7	×	藤森 康平		8	0	2	4	1	7	/	菅原 浄		6	0	3	0	1
8	/	川崎 裕介		6	0	0	6	2	8	/	松澤 大晃		0	0	0	0	1
9	/	富澤 佑也		0	0	0	0	1	9	×	小野 大貴		4	0	2	0	3
10	×	境 一樹		0	0	0	0	0	10	×	高田 歳也		3	0	1	1	1
11	/	高葉 龍		0	0	0	0	0	11	/	圓山 慧		2	0	1	0	0
12	/	池澤 舜		6	0	2	2	1	12	/	菊地 大		4	0	2	0	3
13	/	渡辺 隼人		0	0	0	0	0	13	×	畠山 俊樹		10	0	4	2	2
14	/	小原 佑真		0	0	0	0	0	14	×	新妻 一輝		6	0	3	0	1
15		田中 颯		-	-	-	-	0	15	/	宮澤 耀佑		0	0	0	0	3
16	×	倉林 紀和		1	0	0	1	1	16	/	杉本 健将		0	0	0	0	0
17	/	時野谷 勝幸		2	0	1	0	0	17	/	安藤 誓哉		10	2	2	0	2
18	/	秋元 政彦		0	0	0	0	0	18	/	松澤 大晃		1	0	0	1	4
コーチ		伊澤 暁							コーチ		佐藤 久夫						
Aコーチ		山岸 率							Aコーチ		細野 真						
合 計				51	3	12	18	11	合 計				90	10	27	6	26

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

試合開始時のディフェンスは両チームともマンツーマン。明成はフルコートのマンツーマンプレスで春日部に激しくプレッシャーをかけ、#6石川、#13畠山らのガード陣が鋭いドライブでチャンスメイク、小気味良い攻撃を展開する。春日部は#5清水の3P等で応戦するが、明成の粘り強いディフェンスの前にパスが回らず、攻撃のリズムをつかむことができない。明成は体格で劣るものによくオフェンスリバウンドに飛び込み、徐々に試合の主導権を握る。2本の3Pを含む#6石川らの活躍で27-15と明成がリードを奪って第1Qが終了。

第2Q序盤、明成は#13畠山の速攻、春日部は#5清水のポストプレイなどで点の取り合いとなる。追い上げるきっかけをつかみたい春日部だったが、4分が経過したところで#5清水が負傷退場というアクシデントに見舞われる。攻撃の要を失った春日部は途中出場の#8川崎が奮闘するものの、攻め手を欠きじわじわとリードを広げられる。明成は#6石川がスティールや的確なリードパスでチームを牽引、56-33と更にリードを広げて前半戦を終える。

第3Qに入ると流れを変えたい春日部は3-2ゾーンを敷く。しかし明成は得意の素早いパスワークで春日部のゾーンディフェンスを攻略し、#5佐藤が3連続3Pを決めるなど大活躍を見せる。守っては鍛え上げられたマンツーマンディフェンスで春日部を圧倒、僅か4失点で第3Qを終える。

第4Q、春日部は怪我の治療を終えた#5清水がコートに戻り、巧みなハンドリングから1対1を仕掛け攻撃の起点となる。下級生中心のメンバーとなった明成は攻撃がかみ合わず得点のペースが止まるが、#17安藤が要所で外角シュートを決め、追撃を許さない。スピード豊かなガード陣が終始ゲームをコントロールし、洗練されたバスケットボールを展開した明成が90-51の大差で春日部を下した。